



SASEBO WEEKLY

2006~2007年度テーマ **LEAD THE WAY** 率先しよう 2006~2007年度 R.I.会長 **ウィリアム・ビル・ボイド**

佐世保ロータリークラブ 会長●中島 祥一 幹事●富永 雅弘
事務所●佐世保市島瀬町10-12 親和銀行本店内 TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323
例会場●佐世保玉屋8階(毎週水曜日) TEL 0956-23-8181

平成 19 年 5 月 9 日

第 2,791 回例会

NO 40

《本日》会員数 83名(出席免除会員 24名)・出席 41名・免除者出席 13名・欠席 18名・ビジター 0名・出席率 65.10%

《前々回》会員数 84名(出席免除会員 24名)・出席 41名・メイクアップ 19名

修正出席率 100.00%

会長挨拶

会長 中島 祥一 君

やっと天気に戻ってまいりました。心地よい風が新緑の山々を吹き抜けています。我が家の庭は山野草の花盛りです。

連休中は痛ましい事故がおきています。どうしてもこの時期におきることが多い様です。何か良い対策はないものでしょうか。

JERICメール上でバイオエタノール(バイオガソリン)について色々議論が出ていました。地球温暖化問題でCO²対策にバイオエタノールが果たして地球に優しいかは問題。燃料を使ってトウモロコシを作り、そして、かなりのエネルギーを使いながらバイオエタノールを作る。バイオエタノールの需要が他の農作物にまで影響をしており、燃料の前に食糧不足になるのではないのでしょうか。メキシコではトウモロコシの価格が(25kg/2\$→25kg/4\$)値上がりし、一番安い食べ物トルティーヤさえ食べられぬと騒いでいるそうです。オレンジジュースまでも値上がりしたそうです。農家がオレンジの栽培からトウモロコシの栽培に変換しているためです。また一方でバイオエタノールのためのトウモロコシ栽培をするために、森林をジャンジャン伐採しているとか。何のための環境対策かわかりません。食料マーケットと燃料マーケットの競争が始まったようです。地球温暖化

対策は大切ですが、本当に人間のためになるのか考えてほしいものです。

例会記録

○ロータリーソング「四つのテスト」

○卓話者

九州大学名誉教授

九州大学応用力学研究所

炉心理工学研究センター

名誉センター長

伊藤 智之様

幹事報告

幹事 富永 雅弘 君

1. 第2740地区2007-08年度ガバナー

野口 清君

2007-08年度インターアクト委員長

田中丸治樹君

2007-08年度インターアクト前期指導者研修会のご案内

日時/平成19年5月26日(土)

13:30 開会・点鐘 15:30 閉会・点鐘

場所/武雄市文化会館

ミーティングホール(武雄市)

出席対象者/RC会員 次年度地区委員

次年度IA委員長、IA副委員長

高校(先生) IAC顧問教諭

高校(生徒) IAC会長、副会長

幹事

2. 第2740地区2006-07年度

社会奉仕委員長 白川 十郎 君

「地球温暖化防止対策」ケナフ植樹のお願い

3. 2007-08年度 インターアクト年次大会

実行委員長 草野 幸子 さん

実行副委員長 殿村 周三 君

「平和の歌」歌詞募集及びアンケートのお願い

提出期限 平成19年6月6日(水)

4. 佐世保東南ロータリークラブ

市内8RC親睦ゴルフ大会会長

松田 士郎 君

第35回佐世保市内8RC親睦ゴルフ大会クラブ負担金及び会長賞のお願い

クラブ負担金 45,000円

会長賞 10,000円

5. 佐世保をきれいにする推進協議会

会長 三宅禎太郎 様

空き缶キャンペーンについて(お願い)

実施日/平成19年6月3日(日)

雨天の場合は6月10日(日)

集合時刻/AM8:50 清掃開始/AM9:05

清掃場所/中央公園

委員会報告

■会長エレクト 大神 邦明 君

次年度の報告

5月12日 地区協議会

5月16日 大委員長会議です

■財団奨学・米山委員会 委員長 川富 正弘 君

福田金治会員より(財)ロータリー米山記念奨学会とロータリー財団への寄付をいただきました。

■次年度親睦活動委員会

委員長 加納洋二郎 君

次年度委員会より報告致します。大神会長エレクトより“より楽しさを追求した活動を”

の命を受けて、目下立案中です。まず、手始めに皆様の誕生祝いの記念品についてですが、皆様のご希望に応じた物をプレゼントさせていただこうと考えております。来週より回覧形式にてアンケートを取りますので、ご協力願います。

朗遊会より

朗遊会幹事 芹野 隆英 君

5月13日(日)は8RC親睦ゴルフ大会です。場所はハウステンボスカントリークラブです。

慶 祝

例会委員会 委員長 米倉洋一郎 君

○今月の誕生祝い

安部 直樹 君 (19日)

加納洋二郎 君 (24日)

ニコニコボックス

親睦活動委員会 委員長 高田 俊夫 君

加納洋二郎 君

誕生祝いありがとうございます。

曾我 勝宣 君

伊藤先生、本日は遠路ありがとうございます。よろしく卓話お願い致します。

ニコニコボックス 本日合計 2,000円

累 計 892,000円



ロータリー3分間情報

雑誌委員会 金氏嘉一郎 君

「ロータリーの友5月号を読んで」



今月「ロータリーの友5月号」12ページ卓話の泉の中で、日本食文化研究家 杉本吉徳さんの日本の食文化という卓話を興味深く読ませて頂きました。本日は、この文章を紹介させていただきます。

各国にはそれぞれの食文化が、それぞれ伝わっていますが、日本の食文化の特徴として「箸」が挙げられます。古来の日本人は強飯こわい（ごはんを炊くのではなく、蒸したもの）などの食品を柏や椎の葉に盛って食していました。

「魏志倭人伝」にもみえるように、倭人は手づかみでものを食べていたのです。しかし、遣隋使などが中国と往来し、外国の箸とさじの文化にふれ合うと、木を扱う技術に長けた日本では、箸は木や竹で作られることが主流となりました。

現在は、中国、台湾、シンガポールなどアジア諸国で箸は使われています。箸を使うことで食生活も変わってきました。コメを蒸す強飯は炊飯する姫飯になり、食べ物も箸でつかみやすい寸法に整えられ、合理的な箸運びができるように配膳にも工夫がなされました。それに沿って箸の使い方や食事の方法にも作法が生まれました。

鎌倉時代には一汁一菜の武家の食卓が中心となり、足利時代になり格式が重んじられ、流儀、家元が生まれました。その中から生まれたのが、三汁十五菜もの形がある「本膳料理」です。これは後々一般家庭の「ハレ」の武膳料理になりました。

また、安土桃山時代には、茶の湯が発達しましたが、ここからは質素な一汁三菜の懐石料理が誕生しています。

最後に一見極度に発展したかの作法は、招く人の心配り、招かれる側の気配り、料理をつくる人の真心から成り立つものです。

「してはならないこと、しなければならぬことを心得ることがマナーを心得ることなのです」としめくくられて、これは日常生活にも非常に大事なことであり、ロータリアンにも意味深いことばだと思いました。

卓話

紹介 プログラム委員会

委員長 曾我 勝宣 君

『環境にやさしいエネルギーはあるか』



九州大学応用力学研究所
炉心理工学研究センター
名誉センター長

伊藤 智之 様

1. エネルギー問題の現状と理想のエネルギー

現在我々は、30年、50年前に比し、比較できないほど豊かで快適な生活を送っている。それには大量のエネルギー消費が不可欠であるが、利便さを享受する一方で色々な課題に直面している。例えば大気汚染、酸性雨、地球温暖化、森林伐採などの地球環境の破壊、また石油・石炭等の化石燃料の資源枯渇が挙げられる。また人口増大や発展途上国の工業化に伴いエネルギー需要は更に増大することが予想される。

21世紀に入りこれらの課題に、より一層真摯に向き合う必要が生じている。

ここでこれらの問題点を克服できる理想のエネルギー、夢のエネルギーの条件を整理してみる。

- ①燃料、資源がなくなることがない（非枯渇性）。
- ②市民生活のみならず産業基盤を支えるだけの安定、大量供給が確保できる。
- ③環境破壊をもたらさない。
- ④経済的な価格で供給される。

主な条件はこの4つと考えられるが、全てを満足するエネルギーは存在せず、出来るだけこれらの条件を多く満たす、あるいは個々の長所を活かすことのできるエネルギーについて

て用途に応じた研究開発、実用化が試みられている。

2. 様々なエネルギーとその課題

ここで現在実用化されている、或いは研究開発中のエネルギーを考えてみる。

環境面及び非枯渇性に着目すれば自然を利用した風力、太陽熱、地熱、海洋エネルギーの利用増、実用化が望ましい。しかし、天候等に左右されやすく、エネルギー密度も低いため基幹エネルギーになるのは難しい。エネルギーを作り出す段階では環境への影響は無いとされているものでも、建設、設置の際にCO²を排出したり、森林伐採など自然破壊をもたらすことも忘れてはならない。また、水力発電は長くエネルギー源として利用されてきたが、現状では更なるダム建設は地理的に不可能となりつつある。

原子力は安定大量供給が確保され地球温暖化に直結するCO²排出が無いなどの利点があるが、1999年9月のJCOの人為的事故以来危険性への市民の不安が一段と増大した傾向もあり、また放射性廃棄物の処理問題の議論も強まってきている。これまで基幹エネルギー

分 類	利用するエネルギー	供給エネルギー
自然エネルギー		
太陽光発電	太陽光	電力
太陽熱利用	太陽熱	熱
風力発電	風	電力
地熱エネルギー	地下熱	電力、熱
海洋エネルギー	波力・潮力	電力、熱
リサイクルエネルギー		
未利用エネルギー	事業場排熱	熱
廃棄物再利用	可燃性廃棄物	電力、熱
バイオマスエネルギー	黒液・廃材等	熱
高効率エネルギー利用		
燃料電池	水素、酸素、他	電力、熱
コージェネレーション	天然ガス・灯油等	電力、熱
その他新技術		
クリーンエネルギー自動車	メタノール、水素、酸素等	

の柱とされていた、石油・石炭は環境への影響と残存埋蔵量を考えると他のエネルギーへの転換を進める必要がある。

以上のほか規模は小さいながら、ゴミを利用した廃棄物発電、排出される熱エネルギーを効率よく利用する高効率発電、排ガス削減のために考案されたハイブリッド車などが開発・実用化されているが、いずれも省エネルギー・環境への配慮には効果があっても絶対量では僅かに過ぎない。

3. 21世紀の基幹エネルギーをどう考えるか

現在国際協力で実験炉建設に着手されたばかりの核融合エネルギーは実用化されれば、文字通り資源が少なく海に囲まれた我が国では『夢のエネルギー』として市民の生活、産業活動を支えるであろうと期待される。しかし、その実現への道のりは決して容易とは言えない。地球環境保全の観点から従来の基幹エネルギー源である石油・石炭からの転換は待ったなしの状況である。地球に優しいとされるエネルギーもその立地、製作、建設の段階から総合的に考えれば全く影響がないというものはありえない。

21世紀の後半には核融合エネルギーを基幹エネルギーとし、他の自然を利用したエネルギー等は補完エネルギーとして個々の発電量を増やしつつ、基幹エネルギーを支えていくことが理想的と考えられてきた。しかし、現実の問題として核融合炉実用化の時期が明確でなく、なおかつエネルギー消費の大幅減少は見込めない。従って基幹エネルギーとしては石油・石炭の比率を徐々に下げ、“使用済み核燃料”の再利用（プルサーマル）の実用化を図り、設備の安全性の強化と従事者の一層の技術向上を図るとともに放射性廃棄物問題を解決する研究を進めつつ、原子力発電を発展させざるを得ない。

(今週の担当 古賀 巖)

クラブ会報委員会

委員長 古賀 巖 委員 小川 洋・長富 正博
松尾 文隆・町 孝